

作家じゃなくても偉大なボブ・ディラン

眞鍋由比

せめて作家にしてくれよ！という書店員のツイートを見ながら、本校にボブ・ディランの本あったかな？と心配する私。今年のノーベル文学賞はミュージシャンとしては史上初！シンガー・ソング・ライター、ボブ・ディランでした。本校図書館はCD「ザ・ベスト・オブ・ボブ・ディラン」やLPレコード「ボブ・ディラン」、岩波新書（湯浅学著）『ボブ・ディラン ロックの精霊』2013、（ポール・ウィリアムズ著）『ボブ・ディラン瞬間の轍1. 2』音楽之友社1992、アンソニー・スカデュト『ボブ・ディラン』二見書房1975、角川文庫（サイ・リバコブ著）『ボブ・ディラン』1978そして片桐ユズル『ボブ・ディラン全詩集』晶文社1984を所蔵していました。なかなかでしょ？早速、発表後の朝、彼のCDをかけながら鶴見和之『ポップミュージックで社会科』みすず書房2005のボブ・ディランの項を読んでいると、

ディランの作品はメロディだけでなく歌詞がすばらしくて、2000年前後には毎年のようにノーベル文学賞候補といわれていました

と書いてあったので、なあんだ、昔から何度もノミネートされていて、今回が番狂わせというわけでもなかったんですね。

とはいえ、大学の英文学研究の時間に教授が流してくれた【風に吹かれて】くらいしか知らなかった私はデンゼル・ワシントンの「ザ・ハリケーン」1999年という映画でも使われた曲【ハリケーン】をボブ・ディランが書いたことを知りませんでした。陪審員全員が白人の裁判で、証拠が不十分にもかかわらず3人を殺したとされたボクサー、「ハリケーン」ルービン・カーターが無実だと信じ、冤罪を訴えるプロテストソング※を書いていた（映画を観たのに！）そしてこの【ハリケーン】を第一曲目に収めたアルバム「Desire」は全米チャート第1位に君臨し、ボクサーの有罪は覆り、投獄は人種差別に基づくものだったと保釈されるのです。

正直、同時代に生きている人というより歴史的な人物だと思っていたので（実際、ロデリック・ナッシュ『人物アメリカ史』新潮選書1989のトリとして登場します。フランクリン、ジェファソン、マーク・トウェイン、キング牧師らと肩をならべて）失礼ながらまだライブをしている75歳の現役アーティストだったんだと知りました。そして20年ぶりくらいに聞いてみた「風に吹かれて」。

第2連が特に好きなので『全詩集』より引用します。

How many times must a man look up
Before he can see the sky?
Yes, 'n' how many ears must one man have
Before he can hear people cry?
Yes, 'n' how many deaths will it take till he knows
That too many people have died?
The answer, my friend, is blowing the wind,
The answer is blowin' the wind.

何度空を見上げたら
青い空が見えるのか？
いくつの耳をつけたら為政者は
民衆のさげびがきこえるのか？
何人死んだらわかるのか
あまりにも多く死にすぎたか？
その答えは、友よ、風に吹かれている
答えは風に吹かれている

この歌は最初に聞いた人々を痺れさせ、やがて公民権運動と反戦運動の精神的聖歌となった。ディランの傑作の多くがそうであるように、これも控え目な歌である——正義と平和はいつ実現するのか、と一連の疑問を呈するに過ぎない。だが、その歌詞には詩情がみなぎり、旋律は近づきつつある嵐の前のますますつのる緊張をつたえている。（前述『人物アメリカ史』より）

20年前に初めて聞いたときには、肝心なことをぼかしているような気がしていました。でも今聞くと、何が問題でどうすれば解決するかなんて歌い上げるよりも、たぶん多くの人の心に響く。アメリカの黒人や運動家だけでなく、今の日本にだって十分に必要な歌。

伊坂幸太郎『鴨とアヒルのコインロッカー』では神さまの声といわれたディランの歌。この機会に聞いてみませんか？

※プロテスト・ソング【protest song】
反体制的な主張や抗議を歌詞に取り入れた歌。